

独立行政法人地域医療機能推進機構相模野病院 第16回地域連絡協議会

令和5年2月16日(木)	13:30~14:30	相模野病院 7階 講堂
会議名称	第16回 相模野病院地域連絡協議会	
地域委員	相模原市医師会長 相模原市病院協会長 相模原市歯科医師会副会長 相模原市薬剤師会副会長 相模原市健康福祉局保健衛生部長(兼)保健所長 相模原市相模原消防署長 相模原市社会福祉協議会長 相模原市中央地区自治会連合会長 相模原市大野北地区自治会連合会長 市民代表 患者代表	細田 稔様 土屋 敦様 寺崎 浩也様 (ご欠席) 菅野 宏一様 鈴木 仁一様 栗原 敏実様 笹野 章央様 鈴木 泰信様 山口 信郎様 布施 初子様 (ご欠席) 横井 弥生様
病院委員	院長 今泉 弘、副院長 今崎 貴生、副院長 林 京子、事務部長 織田 修治 看護部長 出口 孝子、副看護部長 平川 洋子	

I. 開会の挨拶 今泉院長

2020年に当院院長に就任以来、地域の住民の方々、医師会、病院協会、薬剤師会、行政の皆様から、当院の運営に関してご指導いただき、誠にありがとうございます。

この会は、2019年度2回目より新型コロナウイルス感染症の関係で書面開催等とさせていただいており、対面での開催は3年半ぶりとなります。

その間、病院だけでなく、どこも大変な数年を過ごされていたかと思います。

当院も昨年、院内クラスターを起こし、関係各所の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことを、改めてお詫び申し上げます。その中でも、当院職員は、一生懸命地域医療に貢献すべく努力をしてくれたと思います。

これからも、そういった努力を継続してまいりますので、本日はいろいろとご指導いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

II. 委員のご紹介

III. 議事

(1) 救急受入れ状況について (資料・グラフにより説明) 医事課診療情報管理室長 鹿島

救急受入れ件数については、年々増えている状況です。

今年についても昨年より増え、毎月100件を下回ることなく推移しています。新型コロナウイルス感染症等で救急出動件数も多くなっていることも受け入れ件数の増加の背景にもなっていると思われます。

救急受入れについては人員配置等の問題もあり、休日・全夜間の対応が難しいものがありますが、受け入れ件数だけではなく、応需率も上げていきたいと思っています。

(2) NICU・GCUの運用状況 (資料・グラフにより説明) 医事課診療情報管理室長 鹿島

当院は地域の周産期母子医療センターとしての役割を担っており、小児科は一般小児の入院よりもNICU・GCUでの未熟児受入れを多く行っています。NICU・GCUでは月の延べ患者数が毎月400名前後、在院日数は平均で25日前後となっています。

受入れの経路については、当院で生まれた児だけでなく、先ほどの救急受け入れにも関係しますが、地域の他医療機関からの新生児搬送の受け入れも行っています。

(3) 相模野病院における地域包括ケア病棟の運用について (スライド資料により説明)

医療福祉相談室主任 長塚

当院で行っている地域包括ケアは、訪問看護ステーションと地域包括ケア病棟の2つとなります。当院の地域包括ケア病棟は、平成26年8月より5B病棟に34床を使って運営し、過去3年の入退院患者数は、毎年500名強となっています。2020年に関しては、新型コロナウイルス感染

症の病棟を設置したため、少なくなっています。

疾患別入院患者割合で一番多いのは骨折の患者さんを中心とした外科系、次に肺炎などの呼吸器系となり、ご高齢の方がなりやすい疾患が多いことがわかります。退院先は自宅が69%と多く、ほかには介護保健施設等に退院される方もいらっしゃいます。在宅復帰率は、過去3年を見ると、80%前後となっていて、2022年から72.5%以上となった要件をクリアしています。

定期的に在宅の介護支援事業所や介護施設を訪問し、地域のニーズを伺っています。ニーズに対応し地域に貢献していきたいと考えています。

(4) 当院における新型コロナウイルス感染症患者対応のご報告（資料・グラフにより説明）

総務企画課長 岡本

1. 病床確保

令和3年度より引き続き神奈川県と病床確保の協定を締結し、県のフェーズに合わせて、中等・軽症用で最大8床の病床を確保しています。4月初旬は神奈川県のフェーズ4に沿って8床でスタートし、その後フェーズが引き下げられています。

令和4年9月に厚労省の緊急包括支援事業の見直しにより、10月より疑似床の確保の終了、また中和抗体療法病床の見直しを行っています。

また、11月には、県より中和抗体療法の入院拠点病院の終了の通知があり、12月より中和抗体療法の病床確保を終了しています。

11月より県のフェーズは3となっていました。市内及び院内のコロナの患者さんの発生状況を踏まえて、年末年始の受入れ態勢の強化のため、12月下旬より当院独自でフェーズ4として病床を確保し、コロナが落ち着いてきた2月上旬よりフェーズ3に下げています。

2. 院外活動

令和4年4月から6月に北里大学東病院へ医師3名を8日間派遣しています。

3. 患者受入れ状況

令和4年2月から令和5年1月のコロナ陽性患者の実人数が175名、延べ人数は1,717名で、実人数の内訳は院内の発生が143名、保健所等からの依頼が32名となっています。

また、入院による中和抗体療法の実施実績は、院内の発生が7名、県からの依頼が4名の計11名でした。

(5) 質疑応答

*土屋委員

回復期リハ病棟や地域包括ケア病棟では、在宅復帰を目指した病床の活用がすすめられており、それにはアウトカムが必要で在宅復帰率がハードルに掲げられています。入院・入室の際には、そのコントロールなど運用が難しい部分があり、どこの病院も困っていると思います。相模野病院で工夫されている点はありますか。

→ 事務局(医療福祉相談室 長塚)

転棟にて入室する患者さんについては、スタッフ間で調整する機会を毎日設け、コントロールを行っています。今年度からは、自院一般病床からの転棟者割合も意識しなければならないため、スタッフ間で情報を密にして復帰率を維持できるよう努めています。

土屋委員

復帰率のコントロールが出来るような入室基準や規程のようなものはありますか。

→ 今泉院長

そこまで厳密にはしていませんが、今年度になって積極的に意識しているのは、外からの入院をなるべくお引き受けして、在宅に復帰できるような努力をしました。それだけでは不十分で、現在も在宅復帰率は80%弱、油断すると70%を割ることも考えられるので、入院を絞るということではなく、リハビリなど在宅復帰への強化は引き続き行っています。

*鈴木委員

当初の頃は、新型コロナウイルス感染症の患者さんを受入れてくれる病床がなかったため、私の方から市内の病院の先生方に直接お聞きするという状況でした。今泉先生にも何回もご相談をさせていただきまして、病棟を閉鎖しなくてはならないとか、構造を変えなければいけないという話をいただきながらも、何とか神奈川県モデルに沿った形で対応していただき、これまで大変なご苦労をされたと思います。また、相模原市の患者さんの受入れに関しまして、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

実際に苦勞された点があれば教えていただければと思います。

→ 今崎副院長

当院はコロナ対応病床 10 床程度の小さな所帯ですので、そこまで大変だったというわけではありませんが、去年の夏までは重症者が多く、悪化した場合は対応ができる病院にすぐに転院が必要になってしまい、受入れ先探しに難航し、遠方まで搬送したケースもありました。その後は、軽症化している印象ですが、患者さんの数、特に高齢の患者さんが増えました。

昨年くらいからは、使用する薬も定まり、診療自体は慣れてきましたが、院内でクラスターが発生したり、感染する職員が多くなり、人手が足りなくなることもありました。断ることはせず、できる限り引き受ける体制をとっていたため、やりくりには苦勞しました。

鈴木委員

本当に大変だったと思いますが、対応していただいてありがとうございました。

*土屋委員

周産期、透析機能を持ちながら、コロナの患者さんを診ていくのは並大抵のことでは無く、フェーズ4で8床受け入れているのは頑張っていると思います。

その中で、オミクロンになって、自分の病院でも透析期の患者さんや、産科についてもかかりつけの方は受入れていかななくてはと思っています。相模野病院では外から依頼があったときには受けられていたのでしょうか。

→ 今崎副院長

産科についてはかかりつけの方で手一杯で、外からの受入れはほとんど出来ていませんでした。透析の方は、当初は入院で加療という形を取っていましたが、数が増えてきた最近は、時間で分けたり、ゾーニングしたりと、日中に血液浄化センターで対応出来るようになったので、まずまずは対応出来ているのではないかと思います。透析患者さんのコロナは全体的に大きな課題で受入れも難しい。実際重症化もしますし、当院も充分に対応出来ているわけではありませんが、それでもいくらかは受入れ出来たかと思っています。

→ 今泉院長

本来であれば、断らない救急を掲げていきたいという気持ちでしたが、マンパワーの問題もありそこまでは至りませんでした。コロナのこともあり、一時に比べると救急応需率が減ってしまったところが私の反省点です。当院は小さな病院ですので、二次救急以外の夜間は難しいのですが、日中に関しては救急を断らないよう、職員と一緒に頑張りたいと思っています。

*細田委員

地域の先生方の患者さんのお引き受けをしていただいて誠にありがとうございます。

ピラミッド型の地域医療というのは、相模原は二次医療圏と市が一致しているので、比較的やりやすい地域だと思いますが、そういう中で、働き方改革だとか、コロナもそうですが、色々な問題が出てきているので、今後柔軟に対応していただかないといけないと、我々も一次救急を柔軟に対応しながら思っています。ただ、特殊なのは小児救急と産科救急で、今後、産科についてはここだけではできないと思います。発想の転換が今後必要で、病病連携を含めて、新しい形の連携をしていかななくてはいけないなと思います。救急に協力いただける先生方、スタッフの方々がそれを受けられるかと言うことが差し迫っているので、そこをとにかく、何とか連携して乗り切りたいと思いますので、是非宜しく願いいたします。

→ 今泉院長

働き方改革というのは、非常に頭の痛いところでもあります。当院は神奈川県周産期救急医療システムの中核病院となっていますが、今後の周産期の医療については、基幹病院である北里大学病院の病院長、教授等々と綿密に連携を取っていき、当院がどのようにして、相模原市のあるいは県央、県北部地域の周産期の医療に穴を空けないように出来るのか、他の基幹病院とも連携してやらせていただくことを、労基署も含めて検討していただいている最中です。

また、もう少ししてある程度方向性が出来たら、皆様にご報告出来るかと思っています。院内でも悩んでいるところではありますので、今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

*笹野委員

医療の関係については専門外ですが、病院運営という形と言うところでお話しをさせていただきます。前回の議事録を見たところ、前任の委員より、医療と福祉の接点がないので、このような場でお話しが出来ればと言う話があったところですが、その後地域福祉の課題も多様化、複雑化しました。それに対する国の対応もだいぶ変わってきたので、病院においても、地域の福祉課題に対して貢献いただくことが、今後出てくると思っています。

今後は、地域の困り事を抱えている方を、地域のボランティアの方、自治会連合会の方、民生委員さん、様々な地域の方々がみんなで何とかして、一人も取り残すことがなく、見捨てることなくケアをしていこうという取組みの中では、何らかの形で貢献いただくことが出てくるかと思われるので、声がかかったら是非ご対応いただきたいと思います。

また、相模原市社会福祉協議会で、今年の10月から「見守りエンディングサポート事業」というものを始めました。これは、身寄りのない独居の高齢者とか高齢夫婦のみの世帯の入退院であるとか、いわゆる終末期の体調の管理であるとか、例えば入退院でトラブルが生じたときにお話しをいただいて、そのサポートを社会福祉協議会でしようと思っています。

今のところ、相談には来られても実際に申し込みに至ったケースはありませんが、社協と契約を結んで預託金をいただいて、何かあったときは代行して、入退院の手続きとか、その後の様々な手続きを代行する事業ですが、病院の方でお困りのケースとかがあったら是非お声かけいただければと思っています。

現時点でも抱えてるケースがありましたら教えていただければと思います。

何らかの形で、医療機関の皆さんと地域の福祉に従事しているものが、様々なところで接点が出てくると思いますので、是非宜しく願いいたします。

→ 事務局（医療福祉相談室 長塚）

MSWが地域の福祉関係の方々との接点が一番多いと思います。

先程お話しのありました、身寄りが無い方のことや終末期のことなどは常々課題かなと感じていました。また、お恥ずかしい話ですが、見守りエンディングサポート事業のことは初耳でした。地域の課題をともに共有して解決できるようなことがあれば、改めてご相談させていただきたいと思いますので宜しく願いいたします。

*横井委員

幅広い医療のニーズに応えていただきまして、大変感謝申し上げます。

先程救急応需率という話が出ておりましたけれども、問い合わせ件数が増えているなかでは、救急応需率が下がってしまうと思いますが、その中でもかなりの数を受けていただいて、地域に住んでいるものとしては安心につながりますし、今後ともお願いしたいところではあります。地域の高齢化に関しまして、先程土屋委員からも話がありましたけれども、高齢化になって入院するとなかなか在宅に帰れなかったり、介護が必要になって施設に入らなければいけないという状況も多数出てくる中で、一旦地域包括ケア病棟に入ったら、帰るところを探すのが非常に大変なのではないかという時代がもうそこまで来ていると思うので、今ここにご来席いただいている皆様が、病院と連携して、そういった方々が安心して暮らせますように願っております。

IV. 閉会の挨拶 今泉院長

本日はお忙しい中ありがとうございます。また貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。相模原市の中にある公的な立場にある当院といたしましては、救急、福祉などいろいろな面でのニーズに応えられるように、今後とも職員一同頑張っていきたいと思っております。恐らく至らないところがまだあると思いますが、自浄作用で病院の中でも頑張っていけますけれども、是非、外から見た目で気づいたところは色々教えていただければ、我々一生懸命改革していきますし、直せるところは直していきますので、今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。